



Fukushima Chuo

◆ 福島中央ロータリークラブ ◆
since 1990

2025年9月10日(水)

第9回(通算1636回) エフズサンパレス
「会員スピーチ 浅野 紘太新会員」

会長あいさつ

2025-26年度会長 鈴木 努



こんにちは。今日も大勢の会員の皆さんの出席をいただきありがとうございます。

前回の例会では、渡邊英世ロータリー財団・米山委員長より新しい寄付用紙の変更のお話があり、早速多くの寄付が集まったとの報告があり、本当に感謝申し上げます。

これから例会終了後、小林青少年奉仕委員長に準備いただきまして、今年度初めての奉仕活動となります。南福島コアラ学童クラブにお邪魔して、昔懐かしいけん玉等を贈

る予定となっております。先生方には、常にご指導いただいていると思いますが、我々ロータリークラブからも、物の大切さ、そして自分達を見守っている方々への感謝を伝えていただければ幸いです、とお話をさせていただく予定です。

贈呈式の準備も、小林委員長にお願いしておりますので、ぜひ、多くの会員に贈呈式に出席していただきたい、と私からもお願い申し上げます。何人参加していただいたか、地区へ報告するようになっていて、クラブの評価につながりますので、よろしく願いいたします。

9月24日には、相楽ガバナー補佐のクラブ訪問となっております。

理事会の様子、例会の様子を見ていただきます。福島中央ロータリークラブらしさを出していきたいと思ひます。多くの会員のご出席を今からお願い申し上げます。

今日はこの後、新会員浅野紘太さんの新会員スピーチが予定されています。幅広く活躍されていますので、大変楽しみにしております。

また、今月は国際ロータリーの「基本的教育と識字率向上」月間となっております。皆さんへは、それぞれメールが届いていると思ひます。ぜひご覧いただきたいと思ひます。

それでは今日も「エンジョイロータリー」しましょう。以上です。

幹事報告



菅野 幸一幹事

- 1) 8月度理事会報告(議事録参照)
- 2) 本日例会終了後14:00～南福島コアラ学童クラブにておもちゃの寄贈式を行います。ご参加の皆様は速やかに移動をお願いいたします。
- 3) 9月13日(土)12:30～郡山ユラックス熱海にて、「社会・国際奉仕委員会/ロータリー財団委員会合同セミナー」が開催されます。当クラブからは鍛冶 輝雄社会・国際奉仕委員長、佐藤 信雄ロータリー財団委員長が出席いたします。
- 4) 次週9月17日(水)は秋の連休特別休会となっております。次の例会は9月24日(水) 18:30～ガバナー補佐訪問例会ホームミーティングです。
- 5) 9月24日の例会前17:00～ウィズもとまちなにて、9月度定例理事会を開催いたします。今回はガバナー補佐も出席いたします。理事・役員の皆様はよろしく願いいたします。



福島中央ロータリークラブ会報

事務局 〒960-8051 福島市曾根田町4-22
TEL:024-526-7211 FAX:024-526-7212
E-mail:info@fukushimachuo-rc.com



HP

例会次第

- ◆開会点鐘 鈴木 努会長
- ◆ロータリーソング「我らの生業」
ソングリーダー 坂本 和司会員
- ◆福島中央RC・ビジョン及び目標の唱和
戦略計画委員会 安藤 正道委員



- ◆会長あいさつ 鈴木 努会長
- ◆ロータリー用語の解説 山田 稔SAA
- ◆お食事をどうぞ
- ◆幹事報告 菅野 幸一幹事
- ◆各委員会報告
 - ・ロータリーの友9月号の紹介
公共イメージ委員会 (大澤 益三委員)
代読 石橋 真一雑誌委員長
 - ・ニコニコBOX委員会報告
ニコニコBOX委員会 川瀬 哲雄委員長
 - ・R財団・米山委員会より
R財団・米山委員会 渡邊 英世委員長
- ◆会員スピーチ 浅野 紘太新会員
- ◆閉会点鐘 鈴木 努会長



会員スピーチ

浅野 紘太

新会員



アサノコウタ「建築以下」MAP

自分たちが住む地域以下の設計事務所40社をアサノコウタがコーディネートした「建築以下」の地図を公開。



自己紹介

BHIS

(ビューティーハッピーアイランドスタジオ)

- 「うつくしま、ふくしま」という福島県のキャッチコピー(基本形)をモチーフにした「**建築以下**」の設計事務所
- 活動の領域(クライアント)は限定をせずに「地域を限定」した領域(コミュニティ)で活動する。
- 福島県庁や市では「地域連携プロジェクト」の一環で、建築学生ではない【普通の学生】とともに「**アサノ組**」という**素人施工集団**として活動する。
- FUTUでは**市民実践型の社会実験**を通じて、行政と共にまちづくりの中心に立ち回りに寄与している。

アサノコウタ「建築以下」(建築)

古民家改修/図書館/住宅設計



「小さな」ものづくりを、いっぱいやってみる。

「ふくしま」は「ふくしま」のまちづくりです。

「小さな」ものづくりが、
「大きな」まちづくりになる。

FUTU

ふつう

社会実験/CityHack/エリアリノベーション

自分たちでまちをつくる公共を享受するものと考えている

公共は自分たちでつくるものであるというマインド

CONCEPT

「福島県民にとってのまちづくり、新しい「ふつう」を実現する」
「市民の使い方を提案し、市民の多様なライフスタイルに応える「市民実践型プロジェクト」

MISSION

まちを「日常」(日常/普通)に使う市民を増やすこと
市民のまちに対する関心を高める(関係性を上げる)

VISION

積極的に活動する市民による「まちづくり」の活動が定着するまちを実現する
新しい公共を創る

Fukushima Tactical Urbanism

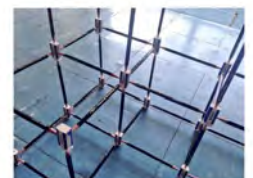
PROJECT Organization



Fukushima Tactical Urbanism



にぎわい広場「人工芝/照明」社会実験





奉仕の志を持つ、ロータリアンの皆様は既に街に接続する、街の中心的活動を担う存在です。

- ▶新しい角度での街の視方,まちに対する解像度を上げる
- ▶これからの新しい公共を創り出す存在

小さなシェア（共有）を増やしていくことで、
公共を創る。

御膳立てされたような
ランドマークは
現代には有効ではない。

ディバージョン、多様性の時代では、
自分たちにあった「都市のイメージ」を創らなければならない。

“とにかくやってみること”
“街に接続すること”

ぱっと見では馬鹿馬鹿しいようなことでも、
巡り巡って、何かしらの意味や意義を持たせられるのではないか

子どものいたずらのような取り組み（遊び）が、
自分たちで「まち」に賑わいを生み出すことになります。

「まち」に行けば何でも揃っているという期待感
「まち」に行けば、誰かに出会えるという期待感



郊外的大型ショッピングモール

AMAZON 楽天などのECサイト

オンラインゲーム

SNSでのコミュニケーション

福島市中心市街の
「都市のイメージ」が消失してしまった。

まちの視方を変えること。
解像度を上げていくこと。

面々の類似に対して、観察・分析を行うことで、類似の差まで見えてきます。

視方、思考を変えると、価値が転回する。

小さなこと、些細なこと

「小さな」まちづくりを、いっぱいやってみる。

※「やってみる」という価値観の転換です。

まとめ：新しい公共の創り方

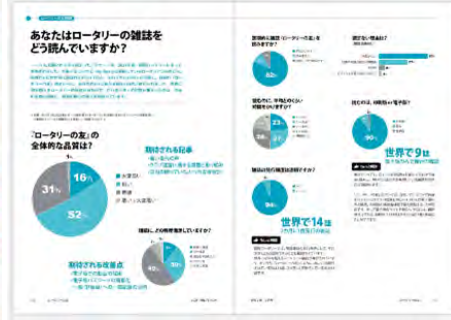
- 新しい公共＝市民が場をつくり、行政へ提言
- 『小さな行動の積み重ねが大きな変化に』
- ロータリアンの皆様、私自身もプレイヤー（主役）です！



ロータリーの友の紹介



公共イメージ委員会
原稿 大澤 益三委員
代読 石橋 真一雑誌委員長



P18 「あなたはロータリーの雑誌をどう読んでいますか？」

ロータリーの友のいろいろなデータと解説がうなずける

P34 「東京品川ローターアクトクラブ」

思わず参加したくなる例会の企画を紹介

P36 「パズルdeロータリー」

□にはめるのは簡単ですが最後の感想が意外と難しい・・・

P47 「卓話の泉」

花のある暮らしって心に余裕が出来ていいなと思います。

本日の出席率

会員数	41名
出席者総数	26名
うち出席免除会員出席	3/4名
出席率	65.0%

ニコニコBOX委員会報告

川瀬 哲雄委員長



■鈴木 努会長

浅野会員スピーチよろしくお願いします

■穴戸 宏行会員

アサノコウタ会員のスピーチを楽しみに！

■鈴木 和夫会員

休みがちですみません

浅野 紘太会員
安藤 正道会員
石橋 真一会員
梅津 寿光会員
大出 隆秀会員
川瀬 哲雄会員
菅野 幸一幹事
小林 潤子会員
紺野 信会員
斎藤 高紀会員
斎藤 達也会員
坂本 和司会員
佐藤 和子会員

佐藤 信雄会員
佐藤 元彦会員
穴戸 宏行会員
菅谷 敏会員
鈴木 和夫会員
鈴木 努会長
丹野 良一会員
芳賀 裕PG
平井 義郎PG
箭内 一典会員
山田 稔会員
渡部九二五郎会員
渡邊 英世会員

目標 150万円

本日の投入額 26件 37,000円
累 計 283,331円

ロータリー用語の解説

クラブ内研修用スピーチ(第8回)
炉辺会合とは何か

山田 稔SAA



本日は、『炉辺会合(ろへんかいごう / Fireside Meeting)』について、その目的、対象者、実施形式などをご説明いたします。

炉辺会合とは、ロータリークラブの中で、会員同士がより親密な関係を築くために行われる小規模な集まりのことを指します。

もともとは暖炉(Fireside)の周りで語らうような、和やかな雰囲気での会合を意味し、現在では“少人数で率直に話せる場”として広く活用されています。

この会合の主な目的は以下の通りです。

- 新入会員へのロータリーの理念や歴史の共有
- クラブ運営についての意見交換
- 親睦と信頼関係の醸成

対象者としては、新会員、会長経験者、理事・委員長、そして一般のクラブ会員などが考えられます。

とくに新旧の会員が交じる構成にすることで、世代や経験を超えた交流が生まれます。

理想的な人数は、6名から10名程度。人数が多すぎると発言が限られ、少なすぎると会の広がりや不足になるため、適度な規模が大切です。

場所は、会員の自宅、クラブの例会場の別室、カフェ、貸会議室など、“リラックスできて静かな環境”が望ましいとされています。また、飲み物や軽食を囲みながら進行すると、より打ち解けた雰囲気になります。

テーマは事前に設定するのが一般的で、たとえば『クラブの親睦について』『ロータリー財団の活用法』『出席義務の見直し』など、クラブ内の課題や未来に向けた話し合いが行われます。

形式ばらない会話を通じて、例会では話しきれない本音やアイデアが引き出されることも多く、クラブの活性化にとって非常に有効です。

以上、炉辺会合の概要と具体的な実施方法についてのご説明でした。

米山梅吉記念館研修旅行

米山記念奨学生:ヴォ ロン クエンさん カウンセラー:佐藤 信雄会員

2025年9月6日(土)~2025年9月7日(日) 1泊2日

9月6日・7日に米山梅吉記念館研修旅行に参加してまいりました。

参加者は、奨学生25名・カウンセラー22名・スタッフその他の総勢61名でした。

私は初めての記念館訪問で、非常に楽しみにして参加しました。渋滞につかまり午後2時到着予定が3時30分となっていまい、記念館での説明は30分となってしまいました。その後、故米山梅吉氏の墓参をして参りました。

● 故米山梅吉氏は、東京に生まれ幼少期を三島で過ごし、三井銀行常務取締役。三井信託銀行初代社長の後、三井報恩会理事として全国に奉仕活動をつづけました。

報恩会時代に、医療・福祉については、ハンセン病では国内の全ての療養所を多額の見舞品を持って訪問。癌についてはベルギーからラジウムを購入し関係団体に寄付。結核についても多額の寄付を行っている。教育関係では青山学院・立教大学設立に対しても多いなる貢献をしている。

ロータリーとのかかわりは、三井物産の福

島喜三次氏との出会いがきっかけで1920年に東京ロータリークラブが誕生し、その後米山氏を中心に動いていった。

30分の説明でかなり概略的で、もっともっと時間があればよかったのにとの感想です。福島から8時間もの車中時間があつたので、その中で米山氏についてのビデオ上映など基礎知識を学習する時間があっても良かったのではないかと思います。奨学生達は熱心にこの説明に聞き入り、訪問の時間が30分しかなかったことで、もっと詳しく聞きたかったと非常に残念がっていました。

翌日は三島神社参詣し、奨学生のクエン君に日本の神道・仏教について大雑把な話をし、忍野八海からの富士山は雲の間合からでしたが見る事が出来ました。クエン君は昨年富士山に登った時の話をしてくれました。忍野の里では忍者屋敷で手裏剣投げなどを体験するなどし、奨学生たちは多いに楽しんで午後8時30分に戻ってきました。

出身国が違い、言葉も様々、ほぼ初対面の奨学生が日本語で話し合い交友を深めている様はすばらしく、とても素敵な体験をさせていただきました。



佐藤 信雄カウンセラーより
おみやげのうなぎパイ



南福島コアラ学童クラブおもちゃ寄贈式

2025年9月10日(水)14:00～

福島中央ロータリークラブ会長の鈴木です。今日は会員もご一緒させていただきます。

今日は貴重な時間とっていただき、南福島コアラ学童クラブの園長先生はじめ先生方には感謝申し上げます。ロータリークラブは会費と寄付から成り立ち、それを社会の為に役立たせるのが目的です。

今日の贈呈式は、今年の3月頃から、小林青少年奉仕委員長にコアラ学童クラブさんと協議していただきながら企画してまいりました。目録にもありました通り、けん玉、縄跳び等の昔ながらの道具でございます。故きを温ね、新しきを知る、まさにその通りです。

なぜコアラ学童クラブさんを選ばせていただいたかは、我々、学童保育園の実態については、知識がありませんでした。これからの福島の将来を担うであろう子供さんたちの健全育成には、学童クラブの存在は、なくてはならないと思っています。

今の世の中は、ご両親共稼ぎの家庭が多く見られ、学校生活、家庭生活、地域の行事参加等の他、もう一つ居場所が必

要です。それを提供されているコアラ学童クラブさんは、大変重要なポジションを地域社会から任されていると思います。

我々、福島中央ロータリークラブも奉仕の心で、何かお手伝いでも出来ないかと考えました。また、生徒さんたちへ心に残ることはできないものかとも考えました。

それで、南福島コアラ学童クラブさんへの、今日の贈呈式となりました。

先生方には、物の大切さ、友達、両親、家族、地域の人々への感謝については、常々お話ししていると思いますが、今日の遊具を通して、生徒さん同士の友情、そして先生方との絆を更に深めていただけたら、我々の目的は達成されると思います。

コアラ学童クラブの先生方、生徒さん達、その家族との心と心のつながりが更に強くなっていくことを見守らせていただきます。今回福島中央ロータリークラブの会員も多数お邪魔しての贈呈式になっていることに感謝申し上げます。ありがとうございました。

南福島コアラ学童クラブ 殿

会長 鈴木 努

令和七年九月十日
福島中央ロータリークラブ
2025・26年度

右、支援品として贈呈いたします

目録
一、競技用けん玉 一五本
一、こま世界大会認定こま・ひも 六セット
一、光るこま 九個
一、ソニックなわとび 一五本
一、縄跳びマット 三枚
一、ヨーヨー 八個
一、ヨーヨーひも(1000本) 一バック
(金拾萬円相当)

目録



目録を手渡す鈴木 努会長



けん玉などの寄贈品



おもちゃを手にする子どもたち

けん玉などに興味津々の子どもたち

縄跳びなどで体を動かす子どもたち



寄贈品の準備を進める
小林 潤子委員長

